シリーズ 循環経済ビジネス ［事業紹介編］ ［ものづくり、物流を支える］ 廃棄物を資源に変換する、次世代の高純度リサイクルで循環型社会を目指す野木商店の挑戦

# 廃棄物を資源に、次世代へ。高純度リサイクルで循環型社会を目指す野木商店の挑戦

廃棄物・再生可能資源 物流・運搬 ［ものづくり、流通］

2026年5月、株式会社野木商店（栃木県）

オリックスは、廃棄物を資源として活用する循環型社会の実現を目指し、2025年、廃棄物処理業を営む株式会社野木商店（栃木県）の株式を取得しました。野木商店は、産業廃棄物の収集・運搬・中間処理・最終処理を一貫して手がけ、とくに、金属くずなどの廃棄物を、再利用可能な資源に変換する高度な中間処理技術を強みとしています。本記事では、オリックスが野木商店に期待する事業の方向性、および、廃棄物を資源に変換する技術の現在地を、現場の視点から整理します。

廃棄物処理の現場では、廃棄物を「処理すべきもの」として扱う考え方から、「資源」として扱う考え方へと、少しずつ、ルールや技術の前提が変わりはじめています。とくに、鉄くずや金属くずなどの廃棄物は、「何を、どこまで、どの品質にできるか」が、その後の利用先を大きく左右します。野木商店は、まさにこの分岐点に立っている企業です。

本記事では、オリックスが野木商店に期待する事業の方向性、および、その実現を支える技術の現在地を、現場の視点から整理します。

**目次**

- 物流に強みがある廃棄物中間処理事業を、純度99%以上の新設備で強化
- 「万が一」に備えて、リカレント教育を通じた人材育成
- オリックスが「金属くずリサイクル」に注目する理由
- 「99%の先」を見据えて、金属リサイクルを軸に共創の輪を広げ、新たな価値を提供し続ける

## 物流に強みがある廃棄物中間処理事業を、純度99%以上の新設備で強化

野木商店の中間処理工場を視察する オリックス

**野木商店**：1970年代、栃木県内を拠点に、鉄くずやゴムなどの廃棄物の収集から処理までを手がけてきた企業です。現在は、中間処理を中心に、廃棄物の収集・運搬・中間処理・最終処理を一貫して行う、廃棄物処理業者です。

**オリックス**：2025年、野木商店の株式を取得しました。オリックスは、廃棄物の収集・運搬から、中間処理、最終処理までを一貫して行う、廃棄物処理業を営む企業です。

もともとは、金属くずの収集を起点に、鉄くずやゴムなどの廃棄物を中間処理として扱ってきました。現在は、収集・運搬から中間処理、最終処理までを一貫して行う、廃棄物処理業を営んでいます。とくに、金属くずの中間処理では、廃棄物を「処理すべきもの」から「資源として扱えるもの」へと変えるための工程を、長年、現場で積み重ねてきました。この工程を、オリックスは、「金属くずの高純度リサイクル」と呼んでいます。

野木商店の新設備。「万が一」に備えて、リカレント教育を通じた人材育成を進める オリックス

**野木商店**：この工程は、金属くずを、ある一定の品質まで、安定して、繰り返し、高純度にできる工程です。ここでいう「高純度」とは、単に「きれいにする」ことではなく、「どの品質で、どの量を、どのタイミングで、安定して出せるか」を、数値で管理できる状態のことです。

**オリックス**：この工程は、金属くずを、ある一定の品質まで、安定して、繰り返し、高純度にできる工程です。ここでいう「高純度」とは、単に「きれいにする」ことではなく、「どの品質で、どの量を、どのタイミングで、安定して出せるか」を、数値で管理できる状態のことです。